（１０） な ば な

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との３年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を６以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて、完全に除去する。	播種前	36	ネビリュウ
		播種または定植前	21 29 36	オラクル粉剤 フロンサイド粉剤 ネビジン粉剤
2 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv.*campestris*	1.連作すると多発するので、最低２年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋没する。 3.排水を良好にする。	発病初期から	M1 24･M1 24･M1	コサイド３０００ （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
3 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って圃場外で処分する。 2.連作を避ける。 3.夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。	発病前から	7	カンタスドライフロアブル
4 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避ける。 2.窒素質肥料の過剰施用を避け、適正施肥をする。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 5.播種後から30日間の防虫ネット被覆が有効である。	発病初期から	M1 M1	コサイド３０００ ヨネポン水和剤
5 白さび病 *Albugo macrospora*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.密植したり、過繁茂にならないようにする。 3.窒素過多にならないようにする。 4.被害茎葉を集めて土中に埋没する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダコニール１０００はべと病、黒斑病、白斑病にも登録がある。	発病初期	11 21 P7 U17 M1 M5	ストロビーフロアブル ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 ピシロックフロアブル ヨネポン水和剤 ダコニール１０００
6 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.圃場周辺にシルバーテープをはる。 3.シルバーマルチをする。 4.育苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象にパダンＳＧ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハイマダラノメイガの発生が少ない。	播種時	1B 4A 4A	オルトラン粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		定植時	1B 1B	オルトラン粒剤 ジェイエース粒剤
		育苗期後半～定植当日	28･4A	（混）ジュリボフロアブル
		発生初期	3A 4A 4A 4A 4A 14 28	アグロスリン水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 パダンＳＧ水溶剤 ベリマークＳＣ
7 モンシロチョウ（アオムシ）	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけ次第捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.アファーム乳剤は、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガにも登録がある。	育苗期後半～定植当日	28 28･4A	プレバソンフロアブル５ （混）ジュリボフロアブル
		発生初期	3A 6 28 28	アディオン乳剤 アファーム乳剤 プレバソンフロアブル５ ベリマークＳＣ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なばな

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象にパダンＳＧ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハイマダラノメイガの発生が少ない。 2.アファーム乳剤は、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガにも登録がある。 3.フェニックス顆粒水和剤で防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。	発生初期	3A	アディオン乳剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤ＣＴ
			11A	トアローフロアブルＣＴ
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			14	パダンＳＧ水溶剤
			15	ノーモルト乳剤
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	ベリマークＳＣ
			30	ブロフレアＳＣ
9 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●若齢幼虫期 1.アファーム乳剤は、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガにも登録がある。	育苗期後半～定植当日	28･4A	（混）ジュリボフロアブル
		若齢幼虫期	4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	サブリナフロアブル
			13	コテツフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			UN	プレオフロアブル
10 キスジノミハムシ	1.育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。	播種前	3A	フォース粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
11 ハモグリバエ類	1.圃場及び周辺の雑草処理を徹底する。 2.フィールドマストフロアブルはナモグリバエに登録がある。	発生初期	4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			28	プレバソンフロアブル５
12 ネキリムシ類	1.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。	播種前	3A	フォース粒剤
		生育初期	3A	ガードベイトＡ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する